

# 研究デザイン

## 亀山市立加太小学校

### 1. 「亀山市教育大綱 基本方針—1」及び「亀山市教育関係職員の研修方針」

教育大綱 基本方針—1

#### 未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら  
なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

### 2. 学校教育目標

仲間とともに 豊かに学び 社会とつながる加太の子の育成

### 3. 関中学校区 研究主題

自他の尊厳と多様な価値観を認め、共に学び、主体的に行動する児童・生徒の育成

### 4. 研究主題

自ら伝え、自らかかわる加太っ子の育成  
～豊かな対話をめざして～

### 5. 主題設定の理由

「自ら伝える力」「自らかかわる力」は、本校の子どもたちに必要不可欠な力ととらえ、研究テーマとして取り組んできた。わたりの授業や合同授業などの学習場面では、日常的に異学年で交流することで上の学年が下の学年の見本になるような姿やペアやグループで話し合いを深め、自然に教え合う姿が見られた。また、縦割り班活動や児童会が中心となって活動する場面では、全校のつながりが深まり、学年関係なく接する姿が増えた。このように、授業や全校での活動の場面では、相手に分かるように話したり、友だちを気遣って声をかけたりする子どもたちの姿が見られるようになり、一定の成果が得られた。その一方で、様々な場面で受け身的な姿があり、与えられた役割を果たすことはできるものの、自ら進んで課題を見つけ、仲間と協力して課題を解決しようとする力は定着していない。また、みえスタディ・チェックや全国学力・学習状況調査等の結果から、既習事項を活用して、論理的に考えて書いたり、根拠を明らかにして説明したりする力が弱い傾向があることが明らかになっている。これらの課題を解決するために、本校ならではの少人数学習や合同授業、わたり授業、異学年集団での関わりといった特色を活かして、子どもたちが主体的に活動や学習に取り組める場面を意図的に設定し、学習活動全般において、児童の思いを出発点にした授業を展開することで「主体的・対話的で深い学び」にもつながる「自ら伝え、自らかかわる加太っ子の育成」をめざしていく。

### 6. 研究主題～つきたい力～について

#### 《自ら伝えるとは》

- ・学習や縦割り班・児童会での活動に意欲的に取り組み、そこで生じた自分の考えを、根拠を明らかにしてまわりの子に伝える力
- ・周りの子の発言を自分の考えと比べながら聞き、考えを深め、意見を返すことができる力
- ・人権学習や人との関わりにおいて、理不尽なことや疑問に感じたときに、それに対して声を上げることができる力

#### 《自らかかわるとは》

- ・やりたいことや知りたいことを自分で見つけ、学習を深めることができる力（物や事とかかわる）
- ・周りの友だちと協力して、一つの課題を解決しようとする力（友とかかわる）
- ・興味をもったことや疑問に思ったことについて、地域の方や保護者、教職員との対話を通して、理解を深めようとする力（大人とかかわる）

#### ～豊かな対話とは～

- ・自分の考えや思いを相手に伝えるように表現できる。
- ・語彙が豊富で、時と場合に応じて使い方を考え、表現できる。
- ・子ども同士、教職員や地域の人との関わりを深め、自分の考えを広げ深めることができる。



### 7. 研究領域

全教科・全領域

### 8. 具体的な取り組み

(1) 授業づくりについて…今年度までに積み上げてきた「加太スタイル」をベースにして授業を行う。

《加太スタイルとは》

#### ○児童の思いを出発点にした授業づくり

- ・単元の導入時に「単元のめあて」を提示し、毎時間確認する。また、それぞれの学習が「単元のめあて」のどの部分（段階）と関わっているかを、指導者と児童が意識しながら学習を進める。
- ・毎時間のふりかえりに子どもが「もっと知りたいこと」や「疑問」を必ず書き、その振り返りをもとに次時のめあてを設定する。

#### ○個々の子どもに対する具体的な支援

- ・視覚支援やワークシートの工夫などをする。

#### ○「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の設定

- ・学習に見通しを持てる「めあて」を設定し、「ふりかえり」として求めたい内容を明らかにして取り組ませる。

#### ○見通しを持たせるための「活動カード」の提示

- ・授業の流れにそって「活動カード」を活用し、子どもたちが、自ら活動に取り組めるようにする。

#### ○ねらいに即した学びの形態（ペア・グループ・一斉）を活用した児童の対話・かかわりのある学習設定

- ・目的に応じてペア学習やグループ学習を取り入れ、学びを深める。
- ・ホワイトボード等を活用して、子どもの考えを可視化し、それぞれの考えの共通点や相違点を見つけさせる。
- ・ロイロノートのシンキングツールや共有ノート機能を活用して、考えを広げ、深める。
- ・「発表する→質問し合う・感想を伝え合う→振り返る」場の設定

#### ○学習リーダー（GL）の活用

- ・低学年から段階的に学習リーダーを育成する。学習リーダーの役割や学習の進め方を理解させるとともに、他の児童にも学習リーダーに協力する態度を育む。

＜学習リーダーの活用例＞

- ・授業の初めに、活動の流れを伝える。
- ・問題の答え合わせをする。
- ・新出漢字の学習の司会をする。
- ・ペアやグループワークでの学習を進行する。

#### ○対話を深めるための「話し方」「聞き方」の定着

- ・「聞き方」「話し方」「対話」チェックシートを活用して、全職員で子どもたちの目指す姿を共有し、実践を重ねる。また、毎月到達度を振り返る。

- ①研究授業を軸に日々、実践を重ねる。
  - ・授業における視点児童を設定し、手だてが有効であったかどうかを考え合う。
  - ・事後検討について…参観の視点にそって意見交流し、子どもと指導者の「よさ」と「課題」を明確にする。何を学び、学んだことをどう生かすかを常に意識する。(研修の自分化)
  - ・1・2学期中にそれぞれ1回ずつ互見授業週間を設定し、参観後、必ず教員間で授業について意見交換を行う。
- ②個々のスキルアップを図る。
  - ・関中学校区の公開授業や学習会に参加する。
  - ・各教員の疑問をもとに定期的にOJTを行う。
- ③人権教育カリキュラムやふるさと学習指導計画の検討を行う。
  - ・人権教育カリキュラムを設定し、年間通じて計画的に学習を進める。
  - ・人権サポートガイドブックを活用する。
  - ・ふるさと学習年間指導計画をもとに、地域の方々との対話を通じて、子どもたちが学ぶ喜びをもち、主体的に学習に取り組めるよう学習の内容を工夫する。



**(2) 子どもたちが言葉の習得を進めるための手立てについて**

- ①辞書を積極的に活用させる。
- ②学 Viva やたしかめプリント等の各種プリントを活用する。
- ③様々な教科等での対話の場面を充実させる。

**(3) 学級づくり・集団づくりについて**

- ①個々の子どもをていねいにみつめる。
  - ・Q-U アンケートや仲間づくりアンケート、教育相談を各学期に1回実施する。
- ②心にとめる子どもを中心にクラスや全校児童の変容を見る。
  - ・各クラスで一人、心にとめる子どもを設定し、その子とクラスの児童や全校児童のかかわりを見つめる。その際、「周りの子のかかわり方を変える」という視点を大切に、クラスや全校児童の変容を見る。
- ③日ごろから、子どもの姿を交流・相談する。
  - ・学年の枠を超えて子どもの様子を観察し、お互いに伝え合う。その内容を子どもに返していく。課題が見つかったらすぐに相談をかけ、具体的な手立て・方向性を考え合い、指導を行う。
- ④保護者の思いをつかみ、連携をはかる。
  - ・学校行事や懇談会など、保護者と顔を合わせる機会を利用して対話を充実させ、理解を進める。連絡帳や電話など、日々の連絡をこまめに行う。



**(4) 学力向上にかかわって**

- ①各種調査の結果分析を生かす。…3つの取り組みのねらいと内容に結びつける。

○あさかせタイム	月曜日	全校読書
	火、水、木曜日	1年生…現在の学習内容の徹底 2年生…漢字学習 3・4年生…国語短時間学習 6年生…外国語短時間学習
	金曜日	業前活動(なわとび、ソーラン)
○チャレンジタイム		
・自主学習の内容を充実させる。		
○はなまるタイム		
・現学年の国語と算数の内容を習熟させる。月曜日の放課後を活用して、月2回、年間20回程度実施する。		

- ②家庭学習の定着を図る。…家庭学習の内容や取り組み方を学年に応じて発信する。  
自主学習を掲示し、紹介し合うことで、子どもたちの学ぶ意欲を高める。  
タブレット端末を活用し、個別の課題に取り組むことで基礎学力の定着を図る。

**9. 研究構想図**

**学校教育目標 仲間とともに豊かに学び、社会とつながる加太の子の育成**

**研修テーマ 自ら伝え、自らかかわる 加太っ子の育成**  
～豊かな対話をめざして～

＜自ら伝えるとは＞

- ・学習や縦割り班・児童会での活動に意欲的に取り組み、そこで生じた自分の考えを、根拠を明らかにして周りの子に伝える力
- ・周りの子の発言を自分の考えと比べながら聞き、考えを深め、意見を返すことができる力
- ・人権学習や人との関わりにおいて、理不尽なことや疑問に感じた時に、それに対して声を上げることができる力

＜自らかかわるとは＞

- ・やりたいことや知りたいことを自分で見つけ、学習を深めることができる力(物や事とかかわる)
- ・周りの友だちと協力して、一つの課題を解決しようとする力(友とかかわる)
- ・興味をもったことや疑問に思ったことについて、地域の方や保護者、教職員との対話を通して、理解を深めようとする力(大人とかかわる)

**加太スタイルを意識した授業づくり 基礎基本を大切に授業づくり**

